

令和4年度実施 学生募集要項

大学院医学系研究科博士課程〔医学専攻〕

【令和4年10月入学者選抜試験】

【令和5年4月入学者選抜試験】

※新型コロナウイルスの感染状況により、本学の入試日程、実施方法及び選抜方法が変更となる可能性があります。変更があり次第、本学WEBサイトにて告知いたします。



旭川医科大学大学院医学系研究科

目次

理念、教育目標・アドミッション・ポリシー	1
ディプロマ・ポリシー	2
カリキュラム・ポリシー	3
I 大学院医学系研究科博士課程〔医学専攻〕学生募集要項	
1. 募集人員、2. 入試日程、3. 出願資格	4
4. 出願書類・出願手続	6
5. 出願資格(6)の工、(7)又は(8)の出願資格認定	7
6. 入学者選抜方法	7
7. 試験日・試験時間・受験の際の注意事項	8
8. 合格発表、9. 入学手続	8
10. 入学料及び授業料	9
11. 受験に際し、特別な配慮を希望する方へ	9
12. 個人情報の取扱いについて	9
II 大学院医学系研究科博士課程〔医学専攻〕入学案内	
1. 組織構成	10
2. 教育課程、3. 各コースにおける研究指導教員	11
4. 教育方法の特例、5. 学位の授与	17
6. 長期履修学生制度、7. 免除等の制度	18
8. 奨学金制度、9. 問合せ先	18
III 「がんゲノム医療臨床医育成プログラム」	19
IV 試験会場	20

添付書類

- ① 志願票
 - ② 写真票・受験票・宛名票
 - ⑦ 受験承認書
- I 入学願書等提出用封筒（角形2号）
 - II 受験票送付用封筒（長形3号）

理 念 、 教 育 目 標

理 念

1. 医療系大学院として、基礎研究と臨床研究の多様な取組を通し、医学・看護学の総合的な発展を図ります。
2. 自主・自律の精神を以て深く真理を探求し、真摯な研究活動を通して知の創造を目指します。
3. 多様で調和のとれた教育体系のもと、豊かな教養と高い人間性、厳しい倫理観を備えた、優れた研究者と高度の専門能力を持つ人材を育成します。
4. 開かれた大学院として、地域に根ざすと同時に世界との連携にも努め、医療福祉の向上と国際社会の調和に貢献します。

教 育 目 標

1. 秀でた独創性、豊かな人間性、厳しい倫理観を備えた、医学教育者・研究者の育成
2. 地域社会の医療福祉の充実のために、指導的な役割を担える高度専門職業人の育成
3. 国際社会で、医学・医療の取組を通し、その普遍的価値を共有できる人材の育成

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

【求める学生像】

1. 知的好奇心を持ち、生命科学、基礎医学、社会医学、臨床医学の研究を志す人
2. 医学・医療を通して、社会へ貢献することに情熱を持つ人
3. 研究成果を世界に向けて発信し、世界と共有する意欲のある人
4. 自ら課題を見つけ、研究を遂行するために必要な学問的素養と論理的能力を備えた人
5. 自ら必要な情報を収集し、論文を作成し、発表するために必要な言語的能力を備えた人
6. コミュニケーション能力を備え、周囲の人々と相互的な協力関係を築ける人

【入学者選抜の基本方針】

「求める学生像」で示す能力等を多面的に評価するため、学力検査の成績、面接の結果及び成績証明書の内容を総合的に審査して選抜します。

学力検査においては基礎学力を、面接においては医療人・研究者としての適性と向上心を評価します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

医学系研究科医学専攻（博士課程）	
研究者コース	臨床研究者コース
前 文	
<p>旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められ、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に対し学位（博士（医学））を授与します。</p>	
「倫理観とプロフェッショナリズム」（態度）	
<p>生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、これらを踏まえた基礎研究を遂行できる。</p> <p>また、解決すべき問題を自ら見出し、それらを探求する意欲を持ち、さらに専門家による批評に堪えうる世界レベルの質の高い研究を志向する態度を持っている。</p>	<p>生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、チーム医療に基づいた高度の専門的医療を実践できる。</p> <p>また、解決すべき問題を自ら見出し、それを自ら探究する意欲を持っている。</p>
「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」（知識）	
<p>基礎研究に関する幅広く深い知識のみならず、自らの基礎研究と医学との関わりについて理解するための基本的医学知識を持っている。</p> <p>また、最先端の研究を遂行するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。</p>	<p>基礎医学の素養に裏打ちされた、臨床医学、社会医学に関する専門的な知識を持っている。</p> <p>また、これらに基づいた医療および研究を実践するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。</p>
「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力、研究遂行能力」（技能）	
<p>豊かな人間性に基づいた知的好奇心を持ち、医学・医療の発展に寄与しうる専門的かつ独創的な基礎研究を実践できる。</p>	<p>豊かな人間性を持って患者、患者家族と接し、患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療のための実践的臨床能力を身につけ、臨床研究を実践できる。</p> <p>また、高度の専門性が必要な診断と治療を実践できる。</p>
「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」（思考・判断）	
<p>基礎研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを自らの研究に役立てることができる。</p> <p>また、未解決の問題を、強い探究心を持って論理的、科学的に追求できる。</p>	<p>基礎医学、臨床医学、社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを診療に応用することができる。</p> <p>また、未解決の問題を、論理的、科学的に探究できる。</p>
「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」（意欲・関心）	
<p>自らの基礎研究を通じ医学・医療の発展に寄与することで、地域社会や国際社会に貢献できる。</p>	<p>医療に対する社会的ニーズを理解し、臨床研究、専門的医療の実践を通じて地域社会や国際社会に貢献できる。</p>

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）では、学生が専攻する科目において先端的な研究を目指す「研究者コース」と臨床研究や臨床試験を推進する能力を涵養する「臨床研究者コース」の2つのコースを設けています。いずれも所属研究室における直接的な個人指導を基本とし、学生は自由かつ学問的な雰囲気の中で研究活動を行います。専門科目では研究の進行に合わせた段階的な特論、特論演習、特論実験実習などを通して、態度、知識、技能、思考・判断能力を体得していきます。研究成果を獲得し、学位論文を書き上げることで、達成感を得るとともに、継続して地域社会・国際社会に貢献する意欲・関心を育みます。上記に平行し、初年度より2年単位で展開される一連の共通講義（先端医学特論、基盤医学特論、医学論文特論）を受講し、学内の研究者との交流を深めながら、医学研究を遂行する上で必要な基礎的・応用的知識を学び、研究者としての倫理的素養を身につけていきます。このような総合的・体系的な大学院教育を通じ、将来の医学を支え、社会からの要請に応えうる指導的な人材を育成することが本博士課程の目標です。

学生は初めに上記いずれかのコースを選択しますが、研究の進展に応じ、コースの途中変更が可能です。また、研究の遂行に有益と認められる場合には、学内の他の研究室において指導を受けることや、海外を含めた学外の大学院、研究所で研鑽を積むこともできます。さらに、初期臨床研修の1年目から大学院に在籍し、研究を早期にスタートさせる制度も採用しています。なお、共通講義については、講義室での通常の講義の他、大学院ホームページ上のeラーニングシステムを充実させ、各自の研究・研修スケジュールに合わせてそのシステムから必要な講義を効率的に受講できるよう配慮しています。以上のように、本博士課程では、学生の主体的な学びを促進するため、可能な限りフレキシブルなカリキュラムを提供するよう努めています。

学習成果の評価は、共通科目、専門科目及び学位論文についてあらかじめ定められた基準に従って行われます。なお、提出された学位論文は、大学院委員会が設置する論文審査委員会による審査及び最終試験により評価されます。

I

大学院医学系研究科博士課程〔医学専攻〕学生募集要項

1. 募集人員

(名)

専攻名	令和4年10月入学	令和5年4月入学
医学専攻	2	15

【注意事項】

- (1) 募集人員に社会人を含みます。
- (2) 社会人とは、官公庁、研究所、企業、公的・民間研究所及び病院等に勤務し、入学後もその職業を有する者をいいます。
- (3) 社会人である大学院学生は、所属する機関で院外研究を行うことができます。

2. 入試日程

- ・出願は、郵送もしくは持参により受け付けています。
- ・出願期間の最終日は、書類必着日を表し、当該日の17:00までです。

●大学院医学系研究科（博士課程）入学試験

出願区分	出願期間	試験日	合格発表日時
令和4年10月入学者選抜	令和4年7月19日(火) ～令和4年7月26日(火)	令和4年8月18日(木)	令和4年9月8日(木) 10:00
令和5年4月入学者選抜	令和5年1月4日(水) ～令和5年1月11日(水)	令和5年2月15日(水)	令和5年3月7日(火) 10:00

※ 新型コロナウイルスの感染状況により、本学試験の日程や実施方法・選抜方法が大幅に変更となる可能性があります。変更があり次第、本学WEBサイトにて告知いたします。

3. 出願資格

※ 文中【 】内は令和4年10月入学者の取扱です。

- (1) 大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程（修業年限が6年であるものに限る。以下同じ。）を卒業した者及び令和5年3月までに卒業見込みの者【令和4年9月までに卒業見込みの者】
- (2) 外国において、学校教育における18年（最終の課程は医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程）の課程を修了した者及び令和5年3月までに修了見込みの者【令和4年9月までに修了見込みの者】
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年（最終の課程は医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程）の課程を修了した者及び令和5年3月までに修了見込みの者【令和4年9月までに修了見込みの者】
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年（最終の課程は医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程）の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者及び令和5年3月までに修了見込みの者【令和4年9月までに修了見込みの者】
- (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和5年3月までに学位授与見込みの者【令和4年9月までに学位授与見込みの者】

- (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年4月8日文部省告示第39号）
- ア 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学を履修する課程又は歯学を履修する課程の学部において、医学を履修する課程又は歯学を履修する課程を履修し、これらの学部を卒業した者
 - イ 防衛省設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者及び令和5年3月までに卒業見込みの者【令和4年9月までに卒業見込みの者】
 - ウ 修士課程を修了した者又は学校教育法（昭和22年法律第26号）第99条第2項の専門職大学院の課程を修了した者（令和5年3月修了見込みの者【令和4年9月までに修了見込みの者】を含む。）及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で本学大学院において、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - エ 大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程を除く）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、大学の医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程又は獣医学を履修する課程）に4年以上在学し、又は外国において学校教育における16年の課程（最終の課程は医学を履修する課程、歯学を履修する課程又は獣医学を履修する課程）を修了し、本学大学院において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- (8) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程又は獣医学を履修する課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和5年3月までに24歳に達する者【令和4年9月までに24歳に達する者】

【注意事項】

- (1) 出願資格(5)で出願しようとする者は、出願期間前のできる限り早い時期に本学入試課まで提出書類について照会願います。
- (2) 出願資格(6)のエ、(7)又は(8)により出願しようとする者は、出願資格の認定が必要になります。詳細は7ページの「5 出願資格(6)のエ、(7)及び(8)の出願資格認定」を参照してください。

4. 出願書類・出願手続

(1) 出願書類

出 願 書 類		注 意 事 項	確 認
1. 志願票	★	写真を貼付（縦4cm×横3cm白黒又はカラー3か月以内に撮影したもの）	
2. 受験票・写真票・宛名票	★	写真を貼付（縦4cm×横3cm白黒又はカラー3か月以内に撮影したもの） 氏名・住所・郵便番号等を記入すること。	
3. 入学検定料		30,000円（普通為替証書とし、その受取人指定欄には何も記入しないこと）	
4. 成績証明書	※	出身大学（学部）長が作成し、厳封したもの。 なお、大学院修士課程修了（見込）者は、出身大学の成績証明書の他に、修士課程における成績証明書をあわせて提出すること。	
5. 卒業（見込）証明書 または 修了（見込）証明書	※	出身大学（学部）長が作成したものとします。 なお、大学院修士課程修了（見込）者は、出身大学の卒業証明書の他に、修士課程における修了（見込）証明書をあわせて提出すること。	
6. 学位授与（見込）証明書及び 認証評価を受けたことを 証明する書類		出願資格(5)に該当する者は、出身大学（学部）の長が作成した学位授与（見込） 証明書及び出身大学が教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府 又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたことを証明する書類を提出し てください。	
7. 受験承認書	★	在職中（予定者含む）の者は、入学時期に在職（予定）する所属長が作成した ものを提出すること。 なお、受験承認書について、不明な点がある場合は、本学入試課まで早めに相 談してください。	
8. 受験票送付用封筒	★	氏名・住所・郵便番号を記入し、指定された箇所に504円分の切手を3枚程度で、 過不足なく貼ってください。	
9. 在留カードの写し		外国籍を有する者は、在留カードの表裏両面のコピーを提出してください。	

【注意事項】

- (1) ★印の出願書類は、必ずこの要項に添付してある本学所定のものを使用してください。
- (2) ※印の出願書類は、本学出身の志願者（卒業見込み者を含む）は、提出する必要はありません。

(2) 出願手続

●出願方法

出願書類は本学所定の入学願書等提出用封筒（添付書類：I）に一括して入れ、出願期間内に提出先まで提出してください。郵送する場合は、必ず「速達・簡易書留」扱いで送付してください。なお、直接持参する場合は、平日9:00～17:00の間にお越しください。

●出願書類提出先

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学事務局入試課

●受験票

試験期日の5日前までに受験票が届かない場合は、至急本学入試課まで連絡してください。

●留意事項

- ・あらかじめ志願する領域の指導教員に必ず連絡したうえで出願してください。
- ・改姓等により成績証明書等の氏名が志願票と異なっている場合は、改姓（名）をした日付と新旧姓（名）を、志願者本人が記した書面（様式任意）を添付してください。
- ・出願書類に不備がある者は受理できません。なお、提出書類の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には入学許可を取り消すことがあります。
- ・受理した出願書類及び入学検定料は、いかなる理由があっても返還できません。

5. 出願資格(6)の工、(7)及び(8)の出願資格認定

出願資格(6)の工、(7)又は(8)により出願しようとする者は、次により出願資格の認定を受けてください。なお、事前に本学入試課まで連絡してください。

(1) 提出書類

- ① 出願資格(6)の工によるもの
 - ア. 出願資格審査申請書及び研究業績等調書
 - イ. 出身学校の卒業証明書及び成績証明書
 - ウ. 研究期間証明書、研究歴証明書(研究機関等が発行)
 - エ. 推薦書(研究歴に関係のある者から)
 - オ. 返信用封筒(審査結果通知用:定形封筒に宛名を明記し、切手(504円分)を貼付する)
- ② 出願資格(7)によるもの
 - ア. 出願資格審査申請書及び研究業績等調書
 - イ. 出身学校の成績証明書及び在学期間証明書
 - ウ. 研究期間証明書、研究歴証明書(研究機関等が発行)
 - エ. 推薦書(在学中の指導教員及び研究歴に関係のある者から各1通 合計2通)
 - オ. 返信用封筒(審査結果通知用:定形封筒に宛名を明記し、切手(504円分)を貼付する)
- ③ 出願資格(8)によるもの
 - ア. 出願資格審査申請書及び研究業績等調書
 - イ. 出身学校の卒業証明書及び成績証明書
 - ウ. 研究期間証明書、研究歴証明書(研究機関等が発行)
 - エ. 推薦書(研究歴に関係のある者から)
 - オ. これからの研究課題及び研究計画書(2,000字程度)
 - カ. 返信用封筒(審査結果通知用:定形封筒に宛名を明記し、切手(504円分)を貼付する)

(2) 提出期間及び提出先

① 提出期間

出 願 区 分	提 出 期 間
令和4年10月入学者選抜試験	令和4年 6月27日(月) ~ 令和4年 7月 1日(金)17:00まで(必着)
令和5年4月入学者選抜試験	令和4年11月24日(木) ~ 令和4年11月30日(水)17:00まで(必着)

※ 期間内必着です。期間後到着のものは受理できません。

② 提出先

「出願書類提出先」(6ページ)と同じです。

(3) 結果通知

審査結果は、郵送により本人宛に通知します。

出願資格「有」と認定された者は、本要領に定める出願書類を出願期間内に提出してください(「4. 出願書類・出願手続」(6ページ)参照)

なお、出願書類のうち、出願資格の認定の際に提出したものは、再度送付する必要はありません。

6. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、面接及び成績証明書の内容を総合的に審査し、判定します。

学力検査は、英語Ⅰ及び英語Ⅱを出題し、英語Ⅰは生命科学、基礎医学又は社会医学に関連する領域、英語Ⅱは臨床医学に関連する領域の英文を題材とし、語彙力、文法力、読解力を問うものとし、

7. 試験日・試験時間・受験の際の注意事項

試験日	科目等	時間
令和4年10月入学者選抜 令和4年8月18日(木)	集合時間	9:20 まで
	諸注意	9:20 ~ 9:30 (10分)
令和5年4月入学者選抜 令和5年2月15日(水)	英語Ⅰ・英語Ⅱ	9:30 ~ 12:00 (150分)
	面接	13:30 ~

【注意事項】

- (1) 学力検査においては、辞書の持ち込みを認めます。ただし、電子辞書及び医学用語辞典等の医学専門辞書は認めません。
- (2) 面接は、指導教員の研究室等で上記の試験日までに行いますので、必ず事前に指導教員と面接の日程について相談してください。試験日までに行えなかった場合のみ、上記試験日の学力検査後に行います。
- (3) 試験当日は受験票を必ず持参し、集合時間までに試験室に入室してください。当日は、午前9時から試験場に入場できます。なお、受験票裏面には「受験者心得」が記載されているので、事前によく読んでおいてください。
- (4) 試験途中での退室は認めません。
- (5) 災害、感染症の拡大等、不測の事態が発生した場合は、試験日程等を変更することがあります。その場合は、本学WEBサイト（裏表紙の問合せ先参照）に、情報を随時掲載して連絡しますので、あらかじめご承知おき願います。
- (6) 受験者が不正行為を行ったと本学が判断した場合は、それ以降の受験は認められず失格となります。
- (7) 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末及び音楽プレーヤー等のすべての電子機器は、試験場に入る前にアラームを解除したうえで電源を切り、かばんにしまって身につけないでください。これらの電子機器を係員の許可無く、試験場内で使用することはできません。また、使用した場合や鳴動した場合は不正行為となることがありますので、十分に注意してください。
- (8) 本学は敷地内全面禁煙となっており、喫煙はできません。
- (9) 受験に際して、本学では宿泊所の斡旋は行いませんので、最寄りの旅行代理店等に問い合わせてください。

8. 合格発表

- (1) 合格者にはレターパックで「合格通知書」を郵送するとともに、合格者の受験番号を本学WEBサイトに掲載します。なお、合格者には入学手続きに関する書類一式も併せて送付します。
- (2) 判定結果について、電話等による問い合わせには一切お答えできません。

9. 入学手続

合格者は期間内に入学料を納付し、入学手続きを完了させてください。詳細は合格者に別途通知します。

●入学手続期間

出願区分	手続期間
令和4年10月入学者選抜試験	令和4年9月9日(金) ~ 令和4年9月16日(金) 17:00まで(必着)
令和5年4月入学者選抜試験	令和5年3月8日(水) ~ 令和5年3月14日(火) 17:00まで(必着)

※ 持参する場合は、9:00~17:00の間にお越しください(土・日及び祝日は受付できません)。

10. 入学料及び授業料

(1) 入学料（予定額） 282,000円

(2) 授業料（予定額） 267,900円（前期分） 535,800円（年額）

- 上記の納付金は予定額であり、入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金が適用されます。
- 授業料の納付の時期については、前期は4月、後期は10月です。ただし、入学日を含む期のみ、1か月遅くなります。なお、希望により前期分の納付の際に、後期分も併せて納付することができます。
- 入学料及び授業料の納付方法については、合格者に別途通知します。
- 入学料及び授業料には免除及び徴収猶予等の制度があり、これに関する手続等については、合格者に別途通知します。
- 既納の入学料は、いかなる理由があっても返還できません。

11. 受験に際し、特別な配慮を希望する方へ

疾病・負傷や身体障がいのために、解答方法、試験室、座席及び所持品等について、特別な配慮を希望する方は、出願期間開始日の2週間前までに、申請書（様式任意）に医師の診断書等を添付して申し出てください。申し出内容を確認のうえ、試験の公平性を確保できる範囲で配慮可能な方法を検討します。

また、入学後の学習や学生生活などについては通年で相談に応じています。

【申請書の内容例】

- (1) 病気・負傷や障がい等の種類・程度
- (2) 受験上特別な配慮を希望する事項
- (3) 修学上特別な配慮を希望する事項
- (4) 高等学校等でとられていた特別措置
- (5) 日常生活の状況

12. 個人情報の取扱いについて

本学が保有する個人情報は「独立行政法人の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「旭川医科大学個人情報管理規程」に基づき、次のとおり、個人情報の保護に万全を期しています。

また、入学試験にかかる出願書類等及び入学に必要な関係書類が、志願者から提出された時点で、以下の内容について志願者本人から同意を得たものとみなします。

- (1) 入学志願者から得られた出願書類等に記載されている個人情報については、本学の入学者選抜、入学後の学籍管理等諸業務、入学者選抜方法にかかる調査・研究及びこれらに関連する業務を行うために利用します。
- (2) (1)の個人情報のうち入学手続を完了した者の情報を、本学学生会及び同窓会等からの連絡に使用します。

Ⅱ 大学院医学系研究科博士課程〔医学専攻〕入学案内

1. 組織構成

本学大学院医学系研究科（博士課程）は、「研究者コース」と「臨床研究者コース」の2コースの教育課程を設けた1専攻で組織されています。

各コースには、それぞれ学際的な研究領域が設定されており、大学院生はいずれか一つの領域に所属し、必要とする専門的知識を修得することとなります。

研究科名	専攻名	コース名	領域名
大学院医学系研究科（博士課程）	医学専攻	研究者コース	腫瘍・血液病態学領域
			社会・環境医学領域
			免疫・感染症病態学領域
			感覚器・運動器病態学領域
			内分泌・代謝病態学領域
			神経・精神医学領域
			循環器・呼吸器病態学領域
			消化器病態学領域
			分子生理・薬理学領域
			生殖・発達・再生医学領域
		臨床研究者コース	臨床腫瘍・血液学領域
			臨床環境・社会医学領域
			臨床免疫・感染症学領域
			臨床感覚器・運動器学領域
			臨床内分泌・代謝学領域
			臨床神経・精神医学領域
			臨床循環器・呼吸器学領域
			臨床消化器学領域
			臨床薬理・分子生理学領域
			臨床生殖・発達・再生医学領域

2. 教育課程

- (1) 教育課程の基本的考え方は、医学専攻の中に、研究者コースと臨床研究者コースを設け、共通の医学研究倫理、方法論に関する基礎知識を持った上で、多様性のある医学研究に対する社会のニーズに応えようとするものです。
- (2) コース間交流のためのカリキュラムを設定しており、コースの途中変更も可能としています。
- (3) 研究者コースは、基礎研究推進に必須な生命科学の基本的知識・技術を習得する基礎医学基盤演習と、各領域別の特論講義、特論演習、特論実験・実習、特論論文作成演習で構成し、先端的な基礎医学研究の遂行を到達目標としています。
- (4) 臨床研究者コースは、臨床疫学・生物統計、臨床研究の倫理・方法論など臨床研究推進に必須である共通の臨床医学基盤演習と各臨床領域別の特論講義、臨床研究・臨床試験特論演習、特論実験・実習、特論論文作成演習で構成し、各領域別の臨床研究等の遂行を到達目標としています。
 なお、このコースでは、臨床研究・臨床試験の立案・実行に関する演習や、各領域専門医取得を視野に入れた診断・治療技術の習得に関する演習を行うことも考慮しています。

3. 各コースにおける研究指導教員

(1) 研究者コース

研究者コースは、先端的な研究を目指す研究者を養成するコースで、一つの研究領域に所属することにより、分野横断的かつ学際的に大学院生が必要とする専門知識の修得が可能です。

領域	研究指導教員名	主たる研究内容
腫瘍・血液病態学	川辺 淳一	・癌細胞におけるタンパク質リン酸化反応の解析を中心とした細胞癌化機構の研究
	中山 恒	・腫瘍微小環境を形成する分子ネットワークの解明
	小林 博也	・抗腫瘍効果を示すワクチン開発の基礎研究
	原 英樹	・がん細胞と微小環境におけるインフラマソーム応答の機能解析
	奥村 利勝	・PPARと癌
	高橋 悟	・慢性骨髄増殖性疾患の遺伝子解析 ・小児造血器腫瘍の微少残存病変の研究
	角 泰雄 横尾 英樹	・消化器腫瘍の発生と病態に関する研究
	伊藤 浩	・骨・軟部腫瘍における化学療法の効果（病理学的・分子生物学的解析）
	柿崎 秀宏	・抗癌剤耐性因子の基礎的研究 ・前立腺癌ホルモン療法的作用機序に関する基礎的研究 ・腎癌におけるサイトカインネットワークの基礎的研究
	片田 彰博	・頭頸部癌、悪性リンパ腫の分子腫瘍学的、EBウイルス学的解析
	加藤 育民	・婦人科悪性腫瘍の転移機構に関する分子生物学的研究
	沖崎 貴琢	・放射線による臓器ないしは組織の病態変化に関する基礎的な評価法の開発

領域	研究指導教員名	主たる研究内容
社会・環境医学	吉田 貴彦	・ヒトを取巻く自然、日常から職域までの全ての環境に存在する健康に影響する要因とヒトとの相互関係について健康障害予防の観点から研究し健康増進につなげる
	高草木 薫	・神経工学的アプローチによる適応機能再建の研究 ・情動的評価に基づくサービス神経科学
	原 英樹	・環境要因が免疫応答に与える影響 ・感染症流行地域における疫学的調査
	西條 泰明	・循環器疾患予防に関する疫学研究 ・室内空気環境・シックハウス症候群・シックビルディング症候群に関する疫学研究 ・臨床疫学（横断研究、症例対照研究、患者コホート、診断的検査） ・過重労働・職業ストレス、社会格差の健康影響に関する研究 ・地域医療の適正化に関する研究 ・出生コホートによる社会・環境要因の小児への影響の解明
	迫 康仁	・アジアを中心に流行している人獣共通寄生虫病（特にエキノコックス症、脳嚢虫症等）に関する疫学研究
	清水 恵子	・薬毒物の毒性機序の解明と毒性阻止機構（薬）の検討 ・DNA 多型を用いた個人識別法の開発を中心とした法医遺伝学
	中川 直樹	・幼小児期からの生活習慣のもたらす健康障害のメカニズム ・動脈硬化症の進展機序と予防因子の解明
	高橋 雅治	・生活習慣病に罹患しやすい性格特性の研究
免疫・感染症病態学	小林 博也	・白樺花粉症発症機序の解析 ・自己免疫疾患発症機序の解析
	原 英樹	・病原体と宿主の免疫学的相互作用 ・病原体が発現する病原因子の機能解析 ・薬剤耐性菌の克服に向けた新規治療法の開発 ・インフラマソームの分子制御機構の解析
	迫 康仁	・難治性寄生虫病（エキノコックス症、脳嚢虫症等）における宿主-寄生虫相互関係に関する免疫・分子生物学的研究
	奥村 利勝	・膠原病発症機序の分子生物学的解明 ・感染後 IBS の病態形成メカニズム ・敗血症を制御する中枢神経メカニズム
	高橋 悟	・分子生物学を用いた先天性サイトメガロウイルス感染症の診断と治療に関する研究
	山本 明美	・皮膚の自然免疫制御
	片田 彰博	・上気道（中耳、鼻副鼻腔、扁桃）の粘膜免疫と感染防御機構の解明
	牧野 雄一	・自己免疫疾患発症機序の分子生物学的解明
感覚器・運動器病態学	高草木 薫	・感覚情報に基づく運動機能再建研究 ・姿勢制御の脳神経機構に関する研究
	伊藤 浩	・脊髄神経系の病態生理 ・関節の生体力学
	宋 勇錫	・網脈絡膜疾患における形態および視機能評価 ・網膜および脈絡膜循環測定法の開発
	片田 彰博	・上気道（鼻腔、喉頭）の呼吸、嚥下機能における生理学的解析
	本間 大	・乾癬を中心とする炎症性角化症における表皮構築の解明

領域	研究指導教員名	主たる研究内容
内分泌・代謝病態学	渡部 剛	・内分泌系を介した生体の恒常性維持機構のうち、主として視床下部-下垂体-性腺系に関して、様々な実験動物モデルを利用して解析する
	川辺 淳一	・糖尿病病態の解明；糖代謝調節における膵島神経再生の役割解明
	原 英樹	・異常代謝産物によるインフラマソーム活性化機序の解析
	奥村 利勝	・糖尿病および合併症の成因・病態
	高橋 悟	・生殖腺・副腎の発生・分化と性分化の分子機構とその障害に関する研究
	山本 明美	・表皮細胞における角化制御機構 ・表皮角層の剥離機構 ・表皮細胞の増殖制御機構 ・皮膚創傷治癒の増殖制御機構
	加藤 育民	・女性ホルモンに関する研究 ・卵子形成・初期卵胞発育に関する分子生物学的研究
	船越 洋	・ノックイン・ノックアウトマウスを用いた代謝機能解析と治療応用研究
神経・精神医学	吉田 成孝	・神経解剖学、特に動物モデルによる神経病態学 ・細胞外プロテアーゼの機能解析
	高草木 薫	・運動制御全般に関する基礎研究 ・睡眠機能に関する神経生物学的研究 ・体性神経系と自律神経系の統合機構研究
	川辺 淳一	・再生組織における末梢神経再生；末梢神経と血管伴走化の機序解明
	原 英樹	・脳神経疾患におけるインフラマソームの機能解析
	中川 直樹	・動脈硬化症の進展機序と予防因子の解明
	橋岡 禎征	・Neuroinflammation 研究に基づいた精神神経疾患の病態解明と新規治療法開発
	高橋 悟	・前脳特異的 Cdk5 欠損マウスをモデルとした脳形成異常の病態解明 ・神経発達障害の病態解明と治療法開発 ・グルコーストランスポーター1欠損症の病態解明と治療法開発
	柿崎 秀宏	・排尿の神経調節機構に関する生理学的薬理学的研究 ・膀胱の知覚に関する基礎的研究 ・下部尿路閉塞モデルにおける神経障害・虚血性障害の病態解明
	木下 学	・MRI を用いたヒト高次脳機能の画像化
	田崎 嘉一	・錐体外路系に影響を与える神経回路の研究
	船越 洋	・神経・免疫疾患に対する再生医学の応用研究 ・トリプトファン代謝による情動修飾の分子機序解析
	松本 成史	・下部尿路および勃起機能障害に対する新規治療薬および検査法開発
高橋 雅治	・ADHD の脳機能イメージング研究	
循環器・呼吸器病態学	入部 玄太郎	・心筋機械感受性現象の生理・病態生理に関する統合生理学的研究
	川辺 淳一	・動脈硬化病態における微小血管の役割解明
	原 英樹	・脳梗塞におけるインフラマソームの活性化機序の解析
	中川 直樹	・熱ショックタンパクによる心血管保護機構の解明 ・動脈硬化性心血管疾患における酸化ストレスの分子生物学的役割 ・心筋・血管再生の分子機構の解明 ・呼吸器疾患の診断と治療
	岡田 基	・敗血症におけるβ-ブロッカーの効果 ・血管内凝固亢進時の呼吸不全とサイトカインの関与の検討

領域	研究指導教員名	主たる研究内容
呼吸器循環器・病態学	北田 正博	<ul style="list-style-type: none"> ・肺癌の生物学的特性の解明 ・特発性間質性肺炎の分子メカニズム
	川村 祐一郎	<ul style="list-style-type: none"> ・不整脈の興奮伝播過程の解明 ・自律神経機能異常による不整脈発生のメカニズムの解明 ・イオンチャンネル異常の細胞電気生理学的機序の解明
	武輪 能明	<ul style="list-style-type: none"> ・体外循環を用いた循環・呼吸補助療法が生体に与える影響と対処法に関する研究
消化器病態学	原 英樹	<ul style="list-style-type: none"> ・腸内細菌とその代謝産物によるインフラマソーム制御機構の解析
	奥村 利勝	<ul style="list-style-type: none"> ・臍癌、非アルコール性脂肪肝炎の発症・進展機構 ・脳腸相関 ・脂肪肝の病態メカニズム ・抗糖尿病薬による消化器癌抑制
	角 泰雄 横尾 英樹	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器領域の炎症と病態に関する研究 ・肝再生に関する研究 ・移植免疫に関する研究 ・臓器保存に関する研究
	野津 司	<ul style="list-style-type: none"> ・脳腸相関
分子生理・薬理学	渡部 剛	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌細胞におけるペプチドホルモンの品質管理機構、および分泌顆粒形成機構・放出機構について、主として電顕免疫組織化学法を用いて解析する
	川辺 淳一	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質リン酸化酵素の機能調節と病態との関連に関する研究
	中山 恒	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物を利用した低酸素性疾患（がん・虚血）の病態解明
	原 英樹	<ul style="list-style-type: none"> ・常在菌とインフラマソームの生理学的機能解析
	中川 直樹	<ul style="list-style-type: none"> ・心筋・血管再生における幹細胞・前駆細胞の役割 ・酸化的 DNA 塩基損傷の修復を介する心血管保護機序に関する研究 ・癒しの循環生理学的効果に関する分子生物学的研究 ・難治性不整脈の分子基盤の解明 ・肺がんの分子標的治療の基礎研究
	山本 明美	<ul style="list-style-type: none"> ・表皮角化関連蛋白の遺伝子発現制御機構 ・表皮細胞のカルシウムを介する制御機構
	神田 浩嗣	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みのメカニズムと疼痛管理
	田崎 嘉一	<ul style="list-style-type: none"> ・新規パーキンソン病治療薬の神経細胞死抑制メカニズムの研究
	船越 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・再生因子による病態修飾の分子機序解析とその応用研究
生殖・発達・再生医学	川辺 淳一	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格筋など組織再生における毛細血管幹細胞の役割解明
	高橋 悟	<ul style="list-style-type: none"> ・分子生物学的手法を用いた子宮内発育不全発症機序の解明 ・分子生物学的手法を用いた新生児疾患の原因究明（neonatal molecular biology の確立）
	加藤 育民	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療の統計学的動向研究
	竹川 政範	<ul style="list-style-type: none"> ・幹細胞を用いた顎骨組織の再生について
	蒔田 芳男	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代シーケンサーを用いた先天異常症候群の解析
	船越 洋	<ul style="list-style-type: none"> ・再生医学とその応用研究
	立野 裕幸	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳類の配偶子および受精卵における染色体異常の生成機序に関する研究
	武輪 能明	<ul style="list-style-type: none"> ・再生医学的手法を用いた心血管系代用臓器の作製に関する研究

(2) 臨床研究者コース

臨床研究者コースは、倫理観を有する専門性の高い診断・治療・技術に裏打ちされた、優れた臨床研究・臨床試験推進能力を備えた臨床医を養成するコースです。

また、本コースも一つの研究領域に所属し、分野横断的かつ学際的に大学院生が必要とする専門知識の修得が可能となっています。

領域	研究指導教員名	主たる研究内容
臨床腫瘍・血液学	奥村 利勝	・ PPARと癌
	高橋 悟	・ 小児高リスク悪性腫瘍に対するサルベージ療法の研究 ・ 小児再発造血器腫瘍に対する reduced intensity stem cell transplantationの研究 ・ 小児における化学療法および造血幹細胞移植後の晩期障害の研究 ・ 小児非血液疾患に対する造血幹細胞移植の研究
	角 泰雄 横尾 英樹	・ 消化器、肝胆膵の悪性腫瘍の診断と治療に関する研究
	伊藤 浩	・ 人工股関節の生体力学
	柿崎 秀宏	・ 泌尿器癌における新規腫瘍マーカーの検索 ・ 腎癌に対する分子標的薬の有効性に関する検討
	片田 彰博	・ 頭頸部癌、悪性リンパ腫の分子腫瘍学的、EBウイルス学的解析
	加藤 育民	・ 婦人科癌の転移機構に関する臨床的研究
	沖崎 貴琢	・ 画像診断学の基本の理解及び腫瘍・血液疾患に伴う臓器や組織の病態変化に関する形態的および機能的評価法の開発
	木下 学	・ 5ALA投与による蛍光フィルタを用いた脳腫瘍摘出法
	谷野 美智枝	・ 腫瘍病理学（特に脳腫瘍と呼吸器悪性腫瘍）・間質性肺炎の病態解明
・ 臨床環境 ・ 社会医学	中川 直樹	・ 幼小児期からの生活習慣の是正と健康障害予防の介入研究 ・ 動脈硬化症の進展予防に関する臨床研究 ・ 慢性閉塞性肺疾患の疫学研究
臨床免疫・感染症学	奥村 利勝	・ 膠原病および類縁疾患の新規治療法開発 ・ 感染後IBSの病態形成メカニズム
	高橋 悟	・ 臍帯を用いた先天感染診断法の確立
	山本 明美	・ アトピー性皮膚炎、乾癬、皮膚悪性腫瘍の臨床免疫
	片田 彰博	・ 上気道（中耳、鼻副鼻腔、扁桃）の粘膜免疫と感染防御機構の解明
・ 臨床運動器学	伊藤 浩	・ 新規人工関節の開発 ・ 関節軟骨の修復と再生 ー間葉系幹細胞の移植免疫の研究ー
	宋 勇錫	・ 全身疾患患者における網膜循環の解析
	片田 彰博	・ 上気道（鼻腔、喉頭）の呼吸、嚥下機能における生理学的解析
	大田 哲生	・ 姿勢制御のメカニズムに関する研究
	林 利彦	・ 皮膚リンパ流の特性に関連する転移メカニズム
	本間 大	・ 炎症性角化症における治療法反応性マーカー等に関する研究

領域	研究指導教員名	主たる研究内容
臨床内分泌・代謝学	奥村 利勝	・糖尿病および合併症の新規治療法開発
	高橋 悟	・クレチン症の疫学と分子基盤 ・成長障害の分子基盤 ・先天性副腎過形成症の社会心理行動に関する研究
	山本 明美	・角化異常性皮膚疾患の臨床的病態の変化と治療
	加藤 育民	・女性ホルモンに関する臨床内分泌学的研究
臨床神経・精神医学	中川 直樹	・脳卒中の急性期治療と予防に関する研究 ・パーキンソン病のテーラーメイド治療の開発
	橋岡 禎征	・精神神経疾患と全身性炎症との関連に関する研究
	高橋 悟	・発達性てんかん性脳症の脳内神経ネットワーク解析
	柿崎 秀宏	・糖尿病における膀胱知覚障害の病態解明 ・過活動膀胱における膀胱知覚過敏の解析 ・前立腺肥大症における膀胱機能異常の解析
	沖崎 貴琢	・画像診断学の基本の理解及び神経・精神疾患に伴う臓器や組織の病態変化に関する形態的および機能的評価法の開発
	木下 学	・インドシアニンググリーン投与による脳循環状態の観察 ・術中リアルタイムニューロナビゲーションと脳機能モニタリング
	大田 哲生	・Brain machine interfaceを応用した脳の可塑性の研究
臨床循環器・呼吸器学	中川 直樹	・温熱を介するトランスレーショナルリサーチ ・心血管疾患における酸化ストレスの関与とその制圧 ・血管新生・心筋再生の臨床研究 ・難治性不整脈の治療 ・呼吸器疾患の診断と治療の臨床研究
	高橋 悟	・小児心疾患患者における肺血管拡張薬の薬物血中濃度に関する研究
	東 信良	・静脈グラフト質の劣化の病態解明 ・静脈グラフト内膜肥厚予防戦略の確立 ・虚血性潰瘍に対する治療法の発展 ・虚血肢における筋変性と血行再建後の筋肉再生研究 ・大動脈瘤の発生機序解明研究 ・小児内視鏡手術の適応拡大 ・低出生体重児の外科治療の変遷と現況
	紙谷 寛之	・大動脈弓部手術における脳保護 ・補助体外循環中の脳灌流 ・低侵襲心臓外科手術の現況 ・生体吸収性の小口径人工血管の開発 ・心筋再生 ・心筋細胞の細胞周期制御機構
	沖崎 貴琢	・画像診断学の基本の理解及び循環器・呼吸器疾患に伴う臓器や組織の病態変化に関する形態的および機能的評価法の開発
	神田 浩嗣	・循環モニタリング
	岡田 基	・敗血症時の腸内細菌の変化 ・生体情報・動画転送装置を用いた心肺蘇生成績の向上の検討
	北田 正博	・肺癌の生物学的特性を利用した治療法の開発 ・特発性間質性肺炎の治療開発 ・気管支喘息の病態と治療法の開 ・胸膜悪性病変に対する光学的診断法の開発
	佐藤 伸之	・非侵襲的心電指標を用いた難治性不整脈のリスク層別化に関する研究 ・難治性不整脈患者における心臓MRI画像所見に関する研究
	川村 祐一郎	・若年成人を対象とした生活習慣病の萌芽についての予防医学的研究 ・不整脈発生基盤への三次元的アプローチ ・非薬物的不整脈治療の自律神経機能に対する影響の解明

領域	研究指導教員名	主たる研究内容
臨床消化器学	奥村 利勝	<ul style="list-style-type: none"> ・ 膵癌、非アルコール性脂肪肝炎の新規治療法開発 ・ 機能性消化管障害の病態メカニズム ・ 脂肪肝の病態メカニズム ・ 抗糖尿病薬による消化器癌抑制 ・ 消化管粘膜炎症のメカニズムとその制御
	角 泰雄 横尾 英樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消化器、肝胆膵領域の炎症疾患の診断と治療に関する研究 ・ 臓器移植の成績に関する研究
	沖崎 貴琢	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像診断学の基本の理解及び消化器疾患に伴う臓器や組織の病態変化に関する形態的および機能的評価法の開発
	野津 司	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能性消化管障害の病態メカニズム
臨床薬理・分子生理学	中川 直樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規心不全治療法の臨床薬理学的検討 ・ 酸化的DNA塩基損傷の修復機序を介する心血管保護法の研究 ・ 癒しの循環生理学的効果と治療に関する研究 ・ 慢性腎疾患と心腎連関 ・ 肺がんの分子標的治療の臨床研究 ・ 多発性硬化症の効果的治療に関する研究
	山本 明美	<ul style="list-style-type: none"> ・ 角化を制御する薬剤の臨床薬理
	田崎 嘉一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の体内動態と薬効・副作用との関連に関する研究 ・ 新規メカニズムを有する抗パーキンソン病薬の開発研究 ・ 特殊病態における抗菌薬のPK/PDに関する臨床薬理研究 ・ ビッグデータ解析を用いた抗菌薬の育薬研究
臨床生殖・発達・再生医学	高橋 悟	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新生児一過性糖尿病の分子基盤に基づいた発生疫学
	加藤 育民	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期医療の将来と人口動向調査研究 ・ ヒト卵巣組織の凍結保存および体外培養に関する研究
	竹川 政範	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顎骨部分欠損時の骨再生に関する臨床的研究 ・ 放射線照射後の骨再生に関する臨床的研究（動物実験も含めて）
	蒔田 芳男	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝学的検査の治療戦略への応用

4. 教育方法の特例

本学博士課程においては、大学院設置基準第14条「教育方法の特例」を適用し、社会人の方々が入学後も仕事を続けながら講義が受講できるように、夕方からも開講します。

5. 学位の授与

- (1) 学位は博士（医学）です。
- (2) 博士の学位は大学院に4年（標準とする。）以上在学し、32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文審査及び最終試験に合格した者に与えます。
ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年以上の在学で認められる場合があります。

6. 長期履修学生制度

本学博士課程では、職業を有している等の事情によって、標準修業年限（4年）を超えて一定の期間（5年又は6年）にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願った者については、審査のうえ、これを許可する制度を設けています。この制度の適用者を「長期履修学生」といい、当該学生の授業料総支払額は、標準修業年限による修了者と同額になります。この制度の適用を希望する場合は、合格発表後、入学手続案内で定める期間に下記「9. 問合せ先」へ申し出てください。

7. 免除等の制度

(1) 入学料免除及び徴収猶予

特別な事情又は経済的理由により入学料の納付が著しく困難な場合、選考のうえ、入学料の全額又は半額が免除される制度があります。また、特別な事情又は経済的理由により入学料の納付が著しく困難と認められる場合には、入学料の徴収を猶予する制度があります。

(2) 授業料免除及び徴収の猶予

経済的理由により授業料の納付が困難な場合、選考のうえ、前期又は後期ごとに授業料の全額又は半額が免除される制度及び授業料の徴収を猶予する制度があります。

8. 奨学金制度

(1) 本学には、大学独自の奨学金制度があり、本人の申請に基づき次の支給基準に該当する学生には、授業料の半額相当を奨学金として支給しています。

支給対象者	<ul style="list-style-type: none">博士課程に在籍する者 (在籍の基準日 前期：5月1日、後期：11月1日)奨学金支給を希望する学期において、授業料免除申請をした者収入が日本学生支援機構奨学金第二種奨学金の収入基準額以下の者
支給対象者から除外される者	<ul style="list-style-type: none">授業料の全額免除又は半額免除となった者休学を許可された者又は休学を命ぜられた者懲戒等を受けた者在学途中で長期履修制度の適用を受けた者
支給金額	・前期又は後期のそれぞれの期に納入すべき授業料の半額相当
支給期間	・長期履修制度適用の有無に関わらず、標準修業年限（博士課程：入学後4年間）

(2) また、本学には、旭川医科大学基金支援事業による奨学資金の支援制度があり、本人の申請による選考の結果、次の金額が支給されます。

年額 250,000円

(3) 日本学生支援機構の奨学金制度があり、本人の申請により大学から推薦し、貸与が認められた場合、次の金額が貸与されます。

・第1種奨学金（無利息） 月額 80,000円・122,000円

・第2種奨学金（利息付） 月額 50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円

（※ 本人の希望により貸与額を選択）

9. 問合せ先

照会先： 旭川医科大学学生支援課大学院・留学生係

電話： 0166-68-2209

E-mail： gaku-inryu@asahikawa-med.ac.jp

大学URL： <https://www.asahikawa-med.ac.jp/>

Ⅲ

「がんゲノム医療臨床医養成プログラム」

本学は、文部科学省の、「多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）』養成プラン」に、北海道大学・札幌医科大学・北海道医療大学及び本学の4大学で共同採択されました。令和4年度以降は、「人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン」として継続しています。

医学専攻臨床研究者コースの「臨床腫瘍・血液学領域」及び「臨床循環器・呼吸器学領域」に、遺伝医療、がんゲノム医療、遠隔医療、多職種連携診療の英知を結集し、道内の中核医療機関とも連携して、大学院学生はもとより地域の医療機関で研修する医師やがん診療にかかわる医療従事者に高度な専門教育を提供し、地域横断的、専門職横断的、臓器（がん種）横断的な包括的がん医療を担う人材および次世代のがんゲノム医療を担う研究者を養成することに取り組む「がんゲノム医療臨床医養成プログラム」を設置し、平成29年度から学生の受入れを開始しました。

この「がんゲノム医療臨床医養成プログラム」の履修を希望する場合には、志望する領域の研究指導教員と事前に相談の上、出願してください。

また、出願に当たっては、入学志願票及び受験票の志望する「専門領域」欄に

臨床腫瘍・血液学 領域
がんゲノム医療臨床医養成 PG

または

臨床循環器・呼吸器学 領域
がんゲノム医療臨床医養成 PG

と記入してください。

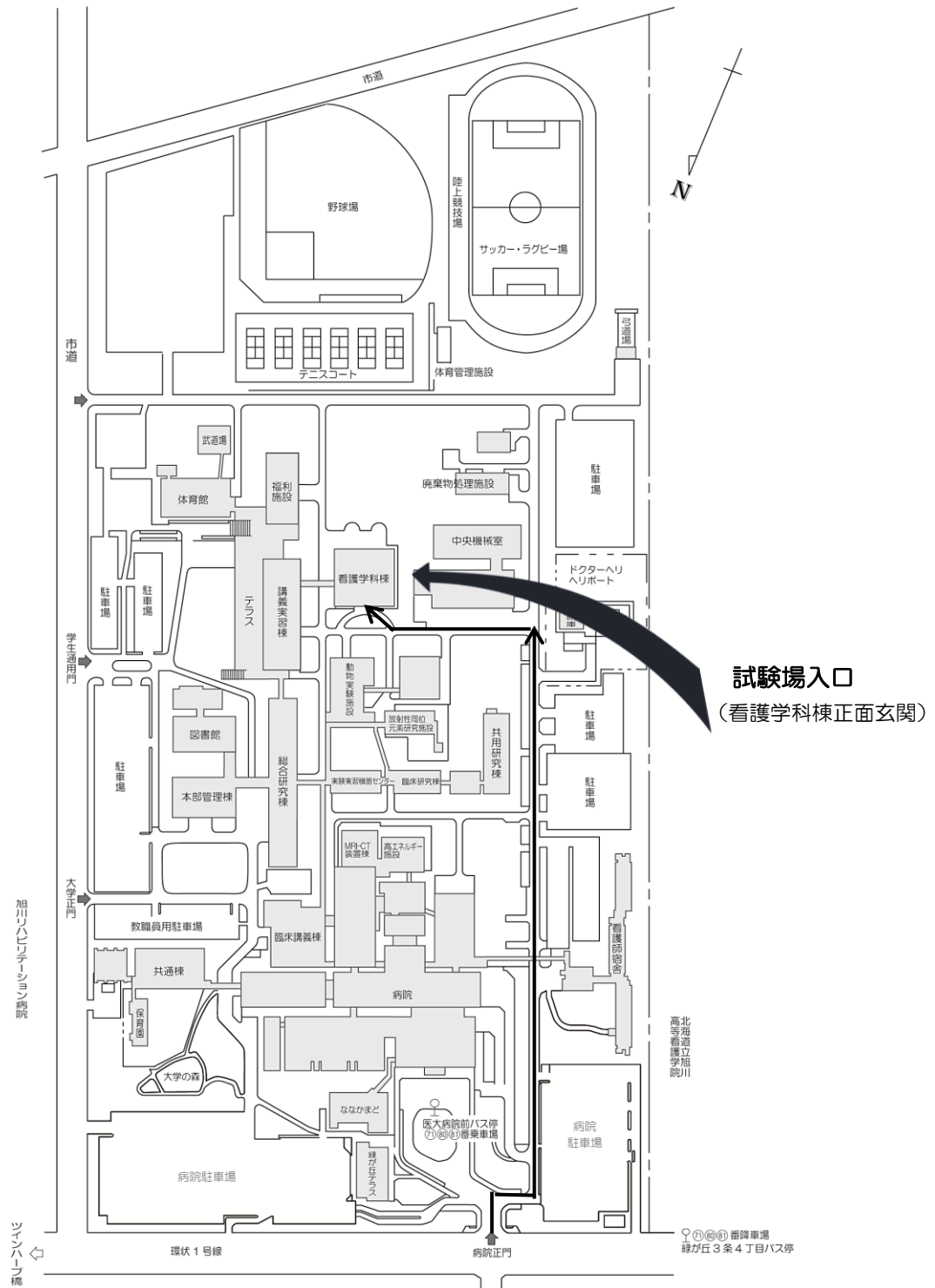
【がんゲノム医療臨床医養成プログラム】

基盤となる医学系大学院教育に加えて、核酸の取り扱いなどの基本手技や次世代シーケンサーやデジタル PCR などの最新の解析手法の理論とプロトコルを学習します。また、生体試料の採取から、遺伝子解析とデータ分析に至る一連の工程を実際に体験し、さらに得られた結果の解釈と、実際に診療情報として利用するための制度を理解します。

本プログラムでは履修者の専門領域の専門医取得に加えて臨床遺伝専門医の取得も可能です。また、本学ではこれまで ICT を利用した高速かつセキュリティの高い遠隔医療システムによる先駆的医療を実践してきました。道北・道東中心の地域医療機関との間に整備されている本システムを積極的に活用し、ゲノム医療に関するカンファレンスやセミナー、カウンセリングに参加することが可能です。本教育プログラム終了後は、ゲノム/遺伝子医療を提供できる医療者としての活躍が期待されます。

IV

試験会場



【注意事項】

- (1) 受験者は試験当日以外、建物の中は立入禁止となります。受験者は必ず「試験場入口」から入場してください。
- (2) 矢印(←)は、試験場入口までの徒歩による順路です。病院の入口等から入場した場合、迷う可能性がありますので、必ず上記順路で入場してください。
- (3) 試験場入口の駐車場は、教職員駐車場となりますので、自家用車で来場される場合は本学病院駐車場をご利用ください。
なお、30分まで無料ですが、30分を超え1時間まで200円、それ以降1時間毎に100円の利用料金がかかります。
- (4) 本学までのアクセスについては、本学WEBサイトでご確認ください。

お問合せ先

旭川医科大学事務局入試課入学試験係
〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
TEL : 0166-68-2214 (直通) (平日9:00~17:00)
<https://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/nyusi/>

